

# シャイン

## — 受講のきっかけと今 —

シャイン 016号

### 産業カウンセラーとして、 何ができるのか

伊師 巖さん

会社名：オフィスあおば

資格： シニア産業カウンセラー、キャリアコンサルタント他



#### 【受講のきっかけ】

前職で人事労務を担当していた 2000 年代前半、メンタル不調から療養休暇を取得する職員が増えてきました。組織として、継続的な対応をはかる必要性は感じつつも、何から手をつけていったらいいのか判然としませんでした。2006 年 4 月、そのヒントを求めて、養成講座を受講しました。“誰もやらないなら自分がやるしかない”と、けっごうな意気込みでした。不思議なもので、この養成講座受講が自分にとって大きな転機になるとは、この時点では思いもよらなかった。

#### 【資格取得後の活動状況】

それから 3 年後の 2009 年 3 月、退職してすぐ、縁あって系列の病院からカウンセラーとして来ないかと声がかかりました。当時の私は人の話を聴くことにそこそこの自信をもっていましたが、カウンセラーとして確信があるわけでもなく、二の足を踏んでいましたが、是非とも声におされて、やむなく引き受けることにしました。

それで、いざカウンセリングをはじめてみると、案の定、どこか人生相談のようになっていたり、クライアントの問題に巻き込まれてしまったり、聴いているつもり、聴いたつもり、自分は満足、相手は不満足等々、聴くことの難しさに悶々とするばかりで、そこそ

この自信もみごとに砕け散りました。

そんなおり、受講していた協会の実技指導者育成講座は、私のカウンセラーとしての“今ここ”と“これから”大きな方向性を与えてくれました。聴くということの本質とは何なのか、カウンセラーとはどういう存在なのか、クライアントを全人格的に捉えるとはどういうことなのか、その意味を気づかせてくれました。

それからというもの、協会の講座をはじめ、他団体の主催する講座にも積極的に参加してきました。

あれから 10 年、現在も、ひと頃ほどではありませんが、“産業カウンセラーとして、何ができるのか”を自分に問いつつ、学びの日々を続けています。

働く人が、仕事で失敗して行き詰まってしまった、職場の人間関係で傷ついてどうしていいかわからなくなってしまった、自分ひとりでは解決しにくい問題を抱えてしまった。そんなクライアントに寄り添いながら、最後には職場に復帰できるようにする。それこそが働く人を支える産業カウンセラーの役割、面目躍如だと思って、今日もクライアントと向かい合っています。

